



研究開発・臨床評価

研究開発課 活動報告会

2010年3月9日(火)
リハセンターホール
9:00 - 18:00

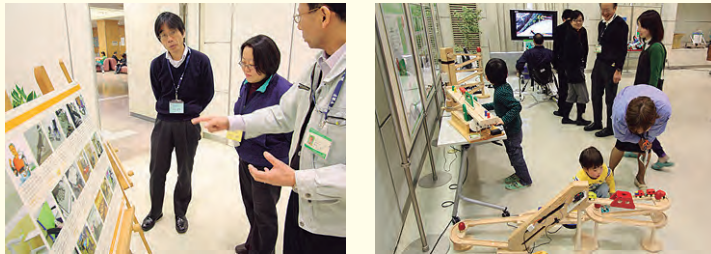
研究開発課っていつも何の研究をしているの？
工学技師（リハエンジニア）ってどんな仕事をしているの？
そんなリハ事業団職員が長年かかえる素朴な疑問にお答えします。



※研究開発課全職員による説明時間：
①11:30-13:00
②16:30-18:00
上記以外の時間帯は自由展示とします
が、職員が交代で常駐しています。

お問い合わせ
横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部 研究開発課
TEL: 045-473-0666 (内線 5623: 青野)
E-mail: aono.m@yokohama-rf.jp

YOKOHAMA REHAB. R&D



【研究開発課活動報告会】

2010年3月9日に研究開発課の活動報告会を実施。横浜市総合リハビリテーションセンターで長年にわたり福祉機器の研究開発を担ってきた当課では、内部職員向けに自分たちの活動を伝える手段がなく、このような過去の成果例を一同に展示するイベントの実施は初。これを機に、これまで以上にセンター内部の連携強化を図り、障害当事者の生活の質の向上につながるリハビリテーション工学に基づいた支援技術を目指す。



【疲労軽減マウスパッド】

障害者・高齢者がパソコンのマウス操作を少しでも楽に行えるように手首を支持することができる、ソフトな感触のゲル素材を用いたマウスパッド。一般の製品としてエレコム㈱から販売。

共同開発: 株式会社 株加地



【福祉用具の臨床評価事業】

厚生労働省から臨床評価機関として認証を受けて特殊寝台8機種の評価を実施。介護保険適応の福祉用具（JIS規格適合品）について厚生労働省が臨床評価事業を本格稼働。

※厚生労働省



【障害当事者による性能評価】

32名の片麻痺者の協力により、足こぎ車いすの試乗評価を実施。障害当事者が一同に集まるイベントと連携することにより効率的な臨床評価が可能となった。

※㈱TESS



【電動乗用玩具のスイッチ操作】

療育センターに通うお子さんに対し、電動の車のおもちゃを改造して、スイッチで簡単に動かせる工夫を実施。3つのスイッチで、前進・左・右に動く仕様。スイッチは、本人の使いやすい種類・配置にすることができる。



【イラスト描画パソコン操作】

筋ジストロフィー症による筋力低下のため、日中はベッド上の生活。極めて小さいトラックボールと左クリック入力のためタッチスイッチを製作。その結果、これまで、中断していたイラスト描画作業が再開できた。



【電動ベッド・スイッチ】

ALSによる四肢まひのため日中はベッド上の生活。痛みを軽減するため、姿勢を任意にかえらるよう、ベッドをジョイスティックで操作できる工夫を実施。その結果、電動ベッドの自立操作が可能になった。



【HCR「福祉機器開発最前線」出展】

国際福祉機器展（HCR）2009の特別企画「福祉機器開発最前線」に選ばれ、「簡易型眼球運動検出スイッチ」を展示。全国規模のイベントで成果例を報告。

※国際福祉機器展



【肢体不自由児の住環境調査】

大学や研究機関と連携し、肢体不自由児の住環境に関するアンケート調査および訪問調査等を実施。

※日本学術振興会科学研究費補助金 研究協力: 国立保健医療科学院、聖学院大学、目白大学



【日本介助犬総合訓練センター】

日本介助犬総合訓練センターシンシアの丘（愛知県）の環境整備に関する技術支援（多目的トイレ、訓練棟トイレ、立ち上がりやすいロビーソファ等）を実施。

※(社)日本介助犬協会



【住まい・高齢者】

脳血管障害による左片麻痺の方に対する新築相談。15坪ほどの狭小住宅であったが、玄関、浴室、トイレ、台所、居室を1階に配置した基本プランは家族にとっても使いやすいと好評であった。



【住まい・身体障害】

脊髄損傷者の自立を目指し、居室にリフトを導入。ベッドからトイレまでリフトによる自立移動が可能。リフトのレールの曲線部分では、身体が回転してしまつたため、天井からガイド用のひもをつけて対応しているのがポイント。



【住まい・知的障害】

インターホンやエアコンのリモコン、照明のスイッチなど、知的障害のあるお子さんが何度も押したり叩いたりして壊されないようにカバーを設置。お子さんの安全管理と家族の精神的負担の軽減に役立った。



【バリアフリーヨットの開発】

揺れる海の上でも体が傾かず、安定したセーリングを楽しむことができるようにシート部分を改良。自分でヨットを操縦することもできるようになった。

※横浜ラポール、横浜ベイサイドマリナー㈱、NPOセイラビリティ江ノ島



【療育部門との連携】

当センターの療育部門との内部連携により、知的障害児の療育環境を改善。トランポリンの周囲にネットを張ることで、トランポリン内部に子どもがはさまって入らないような工夫を実施。

※知的障害児通園施設



【横浜ラポールとの連携】

横浜ラポールと共同でさまざまな催しを実施。写真は木のおもちゃ展の様子。電動で動く木のおもちゃ等を展示。内部連携の強化は情報の共有化が図れ、サービス向上が期待できる。

※横浜ラポール



【研修・啓発・ヨック】

当センターの研修事業は、地域の保健・医療・福祉等関連領域の人材育成やサービスの質的向上を図るうえで有力な事業となつています。リハビリテーションの専門職が長年蓄積してきた技術や知識をひとりでも多くの方に伝え、一緒に学ぶことで地域のネットワークづくりに役立っています。



また、毎年夏には、最新の各種福祉機器の体験や、ワークショップなどのプログラムを用意し、人とテクノロジーの調和を考え、福祉を支える人のアクティビティとテクノロジーの素晴らしさを分かりやすく伝えていくイベント「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド」に協力しています。

臨床工学サービス

研修・啓発

